

ルーテル学院報

創刊号

Luther no.1



秋色に染まる工カード会館



創刊の辞

新しい「学院報」に期待する

理事長 坂根

信義

久しく多くの方々から「学院の最近の状況を知りたい。」という声を耳にしてきました。

この声が多ければ多いほど本学の教育の方に関心を寄せていただいていることを感じずにはおれません。同時に、その責任の重さをあらためて認識しております。関心を寄せていただいている方々の叱咤激励を正面から受け止め、これを教訓として搖るぎない教育の基盤を構築しなければなりません。学院創立以来、何度も発刊された歴史はありますが、不幸な時代の中で続刊できない事態への遭遇等もあり現在まで続いてきたものはあります。今度こそ将来に繋がる内容とするために体制を整えてまいります。いま、学院では「歴史資料室」を充実したものにしようと努力しております。多くの卒業生や関係者から「学院の歴史を語り伝えるにふさわしい宝物」が続々と寄せられています。それらの中には、かつて発刊された「学院報」も目に留まります。これらに目を通すにつけ、「学院報」の持つ役割と意義の大きさを感じさせられます。

このたび創刊する「ルーテル学院報」では、さまざまな形で本学を支えてくださる皆様に現況をお知らせし、本学院の教育の取り組みに忌憚のないご意見をいただくことのできる紙面づくりをめざします。神様から預けられた若き魂が、伸び伸びと力強く、しかも他人の痛みを感じることのできる人間力溢れる存在として育つよう教育（共育）にあらゆる知恵と力を結集してまいります。この目標を達成するため、皆様の協力共同の参画をぜひともお願いいたします。

Contents

座談会 ~九州ルーテル学院のいまとこれから~	2
学院News 共学10周年を経てほか	4
スポットライト	6
聖書の言葉	6
ルーテル学院ヒストリー	7
インフォメーション	8

テル学院の教育

～いまとこれから～



院長・学長
清重 尚弘

様々なところでこう呼ばれています。例えば、資金力のない団体がある人の助言で本学に足を運び、施設を借りたいと言つてこられた。そこで私たちは公的な援助を受けしており、社会資源なので無料で提供しました。このように困った人たちの隣人になりたいという気持ちを持つことで、地元の熊本から支持されてきたのではないかと思っています。

清重 大きく分けて三つあります。一つ目は建学の精神である「感恩奉仕」。これは「何かあつたらお互い様」の気持ちを持つこと、また人間にとつて一番大切な感謝する気持ちを芽生えさせる教育です。二つ目は、「人助けのルーテル」

「感謝奉仕」のスピリットで

学院報創刊にあたり、九州ルーテル学院の現状や今後のビジョン等について語っていただきました。参加者・院長・学長 清重尚弘、中学・高等学校校長 坂 仁、幼稚園園長 尾田明子、司会・事務局長 古屋四朗

— それでは清重先生、大学の特徴をお願いします。

坂 價値観が多様化している中で、キリスト教主義に基づいた教育を行ふことです。さらに男女共学に移行する中で「個性」「共生」「国際性」という明確な目標を掲げました。「個性」は神から与えられた一人ひとりに対する役割と使命感。これを伸ばす教育をすることです。「共生」は文字通り共に生きる心を持たせる教育をすることです。国際性に関しては創立時から力を入れている英語教育の充実

様から授けられたもの」ということをお伝えし、園児にも見えない神様ことを伝えていました。子どもたちが成長していく過程でふと神様のことを思い出して何か感じてくれる嬉しさですね。

— 中学、高校はいかがでしょう

りました。保護者の皆様には子ど

であること。キリスト教学校として、幼稚園から中学・高校・大学が同じキャンパスにありバラエティに富んでいます。豊かな命の展開があると感じています。

— 尾田先生、幼稚園の教育はいかがですか。

現に、今も「預かり保育」で17時半まで開園しています。今までは考えもしなかつたことです。今後どのスタイルで行くのかは、この二、三年の動きで自ずと決まっていくでしょう。

うことができるミツショーンス
クールの特権であり使命であると
考えます。

変化する環境のなかで

— 尾田先生、幼児を取り巻く環境が制度的にも社会的にも非常に大きな変化を迎えていたると思いま
すが…

尾田 幼保一体化の動きがみられる中で、幼稚教育だけでなく子どもを長時間預かる施設として変わつ

材を生み出してるのが使命です。三つ目は、繰り返しになりますが、キリスト教主義の大学であることです。人間とは何か、何のために生きているのか、私たちはどこから来てどこへ行くのかという根本的な問題をいつも考え続けるといふような教育が必要です。そういう

割が県内出身者です。地域を愛し

徹底させていることで、教職員と学生との親密度、学生同士の仲間意識の強化につながります。二つ目は人間教育。ノーベル賞をめざしていくような大学も必要ですが、ルーテルは「人間力」で勝負して

変化する環境のなかで

たが、ここ数年の中で、学校はいよいよ方向に変わってきました。保護者や同窓生からの評価も非常に高まっています。そういう点では、女学院時代の教育理念は一貫しつつ成功しているのではないかと思思います。共学に踏み切る前の生徒数をみると800名ほどでしたが、現在は960名を超えていました。

——尾田先生、幼稚園はこうしたい、こりありたいといふビジョン

ところで坂先生、男女共学になり10年を経過したところでその評価をお願いします。

者で、6年間やってきました。近隣幼稚園では早くから教材等を取り入れた教育を行っているところもありますが、それよりも就学前の遊びの方がもつと大切だと思っています。

「元気がいい!」「大器晩成型!」と言われることがあります。遊びが子どもには一番大事ということが違う!とか言われることはありますか。



九州ルート

座談会



幼稚園園長
尾田 明子

は…。
尾田 時代は変化しても、根底にある教育方針は変わりません。今得できるのは県内では熊大と本学のみです。これは小さな一步ですが、その一步が非常に大きな効果があります。常に一步先に目をやり、スピード感を持つてやる。そういう形で今後も存在意義を持つた大学であり続けたいと思っています。

科と心理臨床学科の二学科体制で行くと思います。人文学科は今年、小学校教諭第一種免許状が取れるようになりました。この資格が取れることは県内では熊大と本学のみです。これは小さな一步ですが、その一步が非常に大きな効果があります。常に一步先に目をやり、スピード感を持つてやる。そういう形で今後も存在意義を持つた大学であり続けたいと思っています。

坂 私の期待は、新しいことへ挑戦することですね。今までの現状維持で満足しているということは大変ですが、いけないと思います。どうすればもっと楽しくなると思いまます。また先生方一人ひとりは本当に一生懸命ですが、いつも一人で戦っている感じます。もう一つは、教育力の面で言えば、大変ですが、常に日々変わらうという意識を持ち続けて欲しいと思います。また先生方一人ひとりは本当に一生懸命ですが、いつも一人で戦っている感じます。もう一つは、教育力の面で言えば、大変ですが、常に日々変わらうという意識を持ち続けて欲しいと思います。



教職員へのメッセージ

一 次に教職員に求めることをお聞かせください。

清重 私立学校とは、私が立てる学校です。言い換えると本気でやっているか、というのがポイントです。そういう点で、ルートの教職員は宝だと思います。本

校といふのは「あの先生のところに子どもをやりたい」「あの先生に習いたい」という形で生徒募集が成功しています。魅力ある先生を育てていきたいと思っています。

清重先生、大学はこれからどうなっていくのでしょうか。

清重 しばらくは、現在の人文学

科と心理臨床学科の二学科体制で行くと思います。人文学科は今年、小学校教諭第一種免許状が取れるようになりました。この資格が取れることは県内では熊大と本学のみです。これは小さな一步ですが、その一步が非常に大きな効果があります。常に一步先に目をやり、スピード感を持つてやる。そういう形で今後も存在意義を持つた大学であり続けたいと思っています。

そういう素晴らしい人材を次々に与えられて、神様に守られていると思うことがしばしばあります。しかし、逆に弱さもあります。終身雇用のもとで意識がマンネリ化してしまうことがあるかもしれません。それをどうやって改革していくか。ここではリーダーの絶えざる激励や励ましなどのリーダーシップ力が問われるでしょう。

それでもう一つは地域密着型。学院によっては、全国展開しまスメディア広告を行っているところもありますが、ルーテルにはそんなことは必要ありません。大学の例をあげると「足でかせぐ」ということで、教職員が80以上ある県内の高等学校すべてに年に5回出向き、出身学生の状況を伝えていきます。中学・高校・幼稚園でもさまざまなものでの取り組みを行っています。これこそ少人数のメリットを活かした地域密着です。このメリットを十分に活かし、地域にとつて存在意義のある、なくてはならない学院をめざします。

尾田 幼稚園の教職員には、キリスト教保育をするにあたって、自分にとつてイエス様はどういう存在なのだとということを深く理解することです。難しいことかもしれないが、それを感じることが保育に現れてくると思います。その他技術的なことや力量は自然に身につきます。キリスト教保育の現場で働く先生はやはり神様と出会つてほしいですね。

一 本日はお忙しいところありがとうございました。

地域密着、スピード感をもつて

清重先生、最後に院長として今後の学院全体のビジョンをお聞かせください。

かせください。



事務局長
古屋 四朗

共学 10周年を経て

中・高

ルーテル学院85年の歴史における神様の恵みを感謝いたします。中学・高等学校は本年で男女共学を開始して10年が過ぎました。少子化の波の中で私学が生き残るために学院がとった決断はとても勇気のいることであつたと思います。

70有余年の女子教育と九州女学院の伝統に誇りを持つておられた同窓生をはじめ多くの関係者の方々にとつては、耐え難い母校の変革であり、女子校の共学化が非常に難しいと云われている中で、学院の将来を心配してくださった方が多かつたことと思います。

男子教育に慣れない教職員は、創立以来の精神「感恩奉仕」と聖句「私が来たのは羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」を大切にしながら、戸惑いながらも多くの試行錯誤を経ながら研鑽を積みかさね、夢中になつて改革を進めてまいりました。

10年が過ぎた今、芸術・総合・特進コースの学習指導も充実してきおり、進路保障も期待できるようになってきています。また、生徒募集対策のひとつとして取り組んだスポーツ強化（2種目特別強化）は、男女とも多くの実績をあげる事が出来るようになりました。生徒達も学院に誇りを持ち、



共学10周年 報告・感謝会の様子
(10月7日ホテル日航熊本にて)

現在、生徒数は中学で各学年60～65名で推移しており、その内男子は半数となっています。高校については、各学年とも320人の定員を満たしており、県下の私学で定員を満たしている5校のうちの1校であります。ただ男子生徒の比率は、共学実施以来30パーセント弱と変化はなく、その対策として医薬系・理学系・工学系への進路指導に十分配慮したカリキュラムや制度の改革を進めています。今後もルーテル学院報の創刊を契機に創立90周年・100周年に向けて多くの方々の期待に応えていきたいと思います。（中学・高等学長坂）

訪れる多くの方々に大きな声で挨拶する姿に、同窓生や学院関係の方から賞賛や励ましのお言葉をいたしております。これまで導いていただいた多くの方々に心から感謝申しあげます。

2学期に入り来年度の園児募集の為の願書配布が始まるとともに、児童の社会情勢の中では『幼保一体化』の問題も大きく浮上している昨今です。幼稚園と保育園の垣根を取り払って『一体化』がスタートしようとされている事は、少子化の中で待たれるのかといった課題は残っています。そのような中で、60年以上の歩みを続けているルーテル学院幼稚園は、キリスト教保育を土台に「あそぶ」ことを大切にしてきました。学習教育へ移行できる力を、友達や教師と関わりながら太陽や水・泥にまみれながら真剣に“あそびこむ力”をつけることをずつと大切にしてきました。

秋空の下、園庭では今日も泥だんご作りに夢中になっている子どもたちの声が響き、保護者の方の温かい眼差しがあることも大きな支えになっています。思いやりや

小学校英語教育への取り組み J-Shine



泥だらけになって遊ぶ園児たち

優しさ・逞しさ・賢さを身につけるべくこれからも豊かな育ちを守り続けたいと願っています。

2011年度からの新学習指導要領で小学校外国語活動が必修化され、小学校での英語活動が本格的に始まりました。大学では昨年度、菊陽町教育委員会と協定を結び、英語教育を学ぶ学生を菊陽町の小学校に英語ボランティアとして派遣しています。学生たちは大学の授業の合間や、夏休みに小学校を定期的に訪問し、5・6年の英語活動を担任教諭とのチームティーチング形式で支援しています。

いま、"あそびこむ力"とは

幼

優しさ・逞しさ・賢さを身につけるべくこれからも豊かな育ちを守り続けたいと願っています。

す。学生にとっては小学校での英語教育の現場を体験できる貴重な機会となっています。さらに、今年度からはNPO法人小学校英語指導者認定協議会（略称「J-SHINE」）の登録団体として認証され、現在取得できる教員免許（小学校、中学・高校（英語）など）と合わせてJ-SHINE資格を取得することで、小学校での外國語活動で中心的な役割を果たす人材の育成が可能となりました。



小学校での授業の様子

大学の施設設備

（家庭科実習室・研究室別館の誕生）

大



リニューアルされた和田研究室

先生の手元を映し出すカメラ付のAVプロジェクターは、まるで料理番組を見ているような迫力のある映像です。

どんな料理、どんな学生達の期待に応えることができたようです。場所は1号館2階、既存の研究室を統合して改修しました。また、中高女子寮の一部をリニューアルして研究室として研究室と心理学実験室が誕生しました。

中高の皆さんに感謝とともに、学院は更なる教育環境の整備に努めています。

9月20日、21日の二日間、キリスト教学校教育同盟の西南地区的10大学が集まり、第48回大学部会

キリスト教学校の将来は

大

ト教と国家－キリスト教の国家への屈服ー、（3）戦後のキリスト教と国家－歴史の教育を生かせぬキリスト教ーについて語り、改訂教育基本法や国旗・国歌法の制定の危険性にも言及されました。

その後は約30名の参加メンバーによる2回にわたる分団協議と最終日には参加校によるアクションプラン提言が行われ、実り多い二日間に幕を閉じました。



講演中の平塚敬一氏

冒頭の基調講演は平塚敬一氏（立教女学院理事長）による「国家とキリスト教学校の教育」。平塚氏は、（1）近代日本の形成期におけるキリスト教路線と富国強兵路線、（2）第二次世界大戦下におけるキリスト教路線と富国強兵路線、（3）戦後のキリスト教の国家への屈服ー、（3）戦後のキリスト教と国家－歴史の教育を生かせぬキリスト教ーについて語り、改訂教育基本法や国旗・国歌法の制定の危険性にも言及されました。

私たちの学校が今まで持つていた海外の学校との交流はすべて英語圏の学校でした。今回、新興高校との交流が始まることによって、英語圏以外の国の学校とのネットワークも加わることになります。

日本と一番近い国、韓国。日本と歴史の中でも色んな関わりがありながら、最近は文化的にも親しく感じる部分が多く、教育においてはとても熱い教育熱を持つイメージとして日本人に知られています。世界の中では日本と似ている部分も多くあります。しかし違う点もあります。世界の中では日本と似ている点もあります。新興高校との交流を通して、私たちの学院は世界に向けてさらに視野を広げ、親しみと共に新しい示唆をたくさん得られると思います。



新興高校へ訪問した時の様子



家庭科実習室

先生の手元を映し出すカメラ付のAVプロジェクターは、まるで料理番組を見ているような迫力のある映像です。

どんな料理、どんな学生達の期待に応えることができたようです。場所は1号館2階、既存の研究室を統合して改修しました。また、中高女子寮の一部をリニューアルして研究室として研究室と心理学実験室が誕生しました。

中高の皆さんに感謝とともに、学院は更なる教育環境の整備に努めています。

韓国新興高校との交流

高

研究会が九州ルーテル学院大学で開催されました。当番校は本学と沖縄キリスト教大学で、現代日本においてキリスト教学校が果たすべき役割について、熱心な議論が続けられました。

冒頭の基調講演は平塚敬一氏（立教女学院理事長）による「国家とキリスト教学校の教育」。平塚氏は、

（1）近代日本の形成期におけるキリスト教路線と富国強兵路線、（2）第二次世界大戦下におけるキリスト教路線と富国強兵路線、（3）戦後のキリスト教の国家への屈服ー、（3）戦後のキリスト教と国家－歴史の教育を生かせぬキリスト教ーについて語り、改訂教育基本法や国旗・国歌法の制定の危険性にも言及されました。

私たちの学校が今まで持つていた海外の学校との交流はすべて英語圏の学校でした。今回、新興高校との交流が始まることによって、英語圏以外の国の学校とのネットワークも加わることになります。

日本と一番近い国、韓国。日本と歴史の中でも色んな関わりがありながら、最近は文化的にも親しく感じる部分が多く、教育においてはとても熱い教育熱を持つイメージとして日本人に知られています。世界の中では日本と似ています。世界の中では日本と似ています。新興高校との交流を通して、私たちの学院は世界に向けてさらに視野を広げ、親しみと共に新しい示唆をたくさん得られると思います。

今年の6月、ルーテル学院中学・高校と韓国的新興高校はこれから互いに継続的な交流を持つことを約束して、協定を結びました。交

委員長 西山 慎一郎



募金活動をする生徒たち（4/5入学式にて）

3月11日に発生した東日本大震災の衝撃が冷めない3月14日に、坂校長先生の呼びかけのもと、教職員有志20数名が中心となり支援活動委員会が設置されました。中高の教職員・生徒・PTAが連携するこの委員会は、①無理せず、やれる範囲の支援を、②ある程度継続的に活動する、の二点をコンセプトとして支援活動をすることにしました。

現在までの活動内容は、学校行事などでの募金活動やルーテル仙台教会の仲介による2回の「おすそわけプロジェクト」での物資の援助などがあります。委員会の活動から派生したものとしては、被災生徒の受け入れや、熊本いいくに会との連携、個人や生徒の委員会による独自の活動が挙げられます。これまでの活動は被災直後の支援が中心でしたが、これからは被災地が復興していく過程にいかに関わりを持ち続けていくのかが課題となつていています。

員会による独自の活動が挙げられます。これまでの活動は被災直後の支援が中心でしたが、これからは被災地が復興していく過程にいかに関わりを持ち続けていくのかが課題となつていています。

LUTHER SPOTLIGHT

聖書の言葉

神の無限の恵み

大学チャプレン 黄 大衛ホワツ ダーウェイ

詩編103篇11節に、「天が地を超えて高いように／慈しみは主を畏れる人を超えて大きい」という言葉があります。これはダビデの詩の一 句です。

ダビデは神様に祝福されたヘブライ王国黄金時代の王でした。彼は栄光と共に苦しみの多い人生を経験しました。しかし、いつでも神から離れず、堅く頼っていた人物です。

さて、この聖句も彼の神に対する讃美の一部です。ここで、彼は神からの恵みの無限さを歌います。神の慈しみや恵みは、天が地を超えているような広大なものだと言えます。

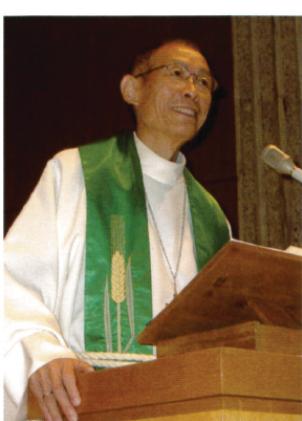
ところで、今年我が家ではグリーンカーテンを作りました。咲いている花には毎日ミツバチや蝶が群がります。書斎の窓から、葉っぱの間を忙しく働いている蝶を観賞することは、私の一つの楽しみになりました。葉っぱはかなり茂つてるので、その間を頻繁に往復するのは、蝶にとって、狭すぎるように見えます。しかし、この蝶は一旦グリーンカーテンから

離れると、大空を飛ぶことができます。つまり、その蝶は空のすべてを使えるのです。言い換えれば、神様は一匹の蝶のためにも、空のすべてを提供しているのです。この蝶と同じように、私たち小さき弱い者のために、神様は私たちの認識を超えた、はるかに高い、レベルの違う恵みを、そのすべてを提供してくださっているに違いありません。

本学院の85年間の歩みを見ても、この神様の恵みの深さの一端を味わえます。

社会と時代の要請に応え、九州女学院から男女共学のルーテル学院へと成長している過程を見ても、明らかです。特に今は、私学経営が困難であるといわれていますが、本学院は神様に恵まれています。

どうか、神の慈しみと恵みを心に留め、これから励みとしたいものです。



司式中の黄チャプレン

ルーテル学院ヒストリー

～学院創立から現在まで～

History

マーサ・B・エカード物語1：アメリカから日本へ



マーサ・B・エガード初代院長

九州ルーテル学院の創立者。

初代院長マーサ・B・エカード（1887—1969）は

米国ルーテル教会最初の独身女性宣教師であった。エカードは、1914年1月26歳で

来日したが、その頃の日本は日清・日露の戦争に勝利し、

その年の夏には第一次世界大戦に参戦、戦争が当たり前のような日々で、小さな子どもたちは「兵隊さんごっこ」をして遊んでいる時代であった。

来日後、東京神田日語学校で日本語を学ぶが、努力家のエカードは2年課程を半年早く

修了し、1915年ルーテル

教会最初の宣教の地、佐賀に赴き、リッパード宣教師夫人

が開園した佐賀幼稚園に勤務

する。

エカードの両親は彼女が思春期の頃に相次いで病死。エ

カードは、両親の影響で信仰心が厚く、日本でのキリスト教伝道を子どもの頃から夢見ていたという。16歳の時、利

ネシー州を離れ、ヴァージニア州のマリオンカレッジに編入する。カレッジの初代学長シェーラーと妻エリザベスは

日本伝道に熱心で、三女キャサリンは佐賀での宣教師たちの仕事ぶりを伝えるルーテル

教会の機関誌『南部ルーテル』の編集を手伝い、同機関誌が「タ

イディングス」と改称される

と編集長になった。エカードはこうした機関誌を読みながら日本伝道への夢をさらに膨らませていった。18歳でカレッジを卒業後、カレッジ付属

高校で教師となるが、1年で教職を辞し、3年後ワシントンD.C.にある幼稚園教師師範学校に入学する。ルーテル

教会が佐賀で幼稚園伝道に力を入れていたからである。1911年幼稚園教師免許を取り得し、伝道局に宣教師を志願するが独身女性を採用する準備が整っていないという理由で断られる。一方、英國・米国の他教派では次々に女性宣教師を派遣し、日本で遅れていた女子教育に取り組み、関東・関西地方に女子校を開設していた独身女性宣教師メアリー・

キダーは1869年35歳で来日、横浜にフェリス・セミナリーを開校した。エカードは、志願してから2年後、牧師の娘メアリー・バウスと共に横浜に到着したのだった。

エカードは佐賀の幼稚園で1年間勤務、翌年1916年福岡の南博（なんぱく）幼稚園に勤務、1917年には同幼稚園園長、1921年には久留米の日善幼稚園園長に就任。また、同年「日本幼稚園連盟」の連盟長に選出された。エカードの真面目で前向きなクリスチャン精神が日本全国に知れ渡った結果なのだろう。

（次回「九州女学院創立とエカード先生」へ続く）

日本伝道に熱心で、三女キャサリンは佐賀での宣教師たちの仕事ぶりを伝えるルーテル教会の機関誌『南部ルーテル』の編集を手伝い、同機関誌が「タ



文：青山静子さん

『マーサ・B・エカードの冒險』(ドメス出版)の著者
(九州女学院高校18回卒業生)

Luther Information

2012年度 学生・生徒・園児の募集日程が決まりました。

九州ルーテル学院大学 詳細につきましては、☎096-343-1600までお問い合わせください。 <http://www.klc.ac.jp>

入試区分	出願期間	試験日
指定校推薦	10月31日（月）～11月4日（金）	11月12日（土）
授業料全額免除・公募推薦	11月7日（月）～11月17日（木）	11月26日（土）
一般Ⅰ期・帰国学生及び私費外国人留学生・編入学	1月16日（月）～1月26日（木）	2月4日（土）
センター試験利用	1月30日（月）～2月8日（水）	本学独自の試験は行いません
一般Ⅱ期	2月15日（水）～2月23日（木）	3月3日（土）



ルーテル学院高等学校 詳細につきましては、☎096-343-3246までお問い合わせください。 <http://www.luther.ed.jp>

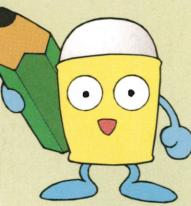
入試区分	出願期間	試験日
専願入試（スポーツ専願含）・奨学入試	1月13日（金）～1月20日（金）	1月25日（水）
一般入試	2月7日（火）～2月14日（火）	2月17日（金）

ルーテル学院中学校 詳細につきましては、☎096-343-3246までお問い合わせください。 <http://www.luther.ed.jp>

入試区分	出願期間	試験日
専願入試・奨学Ⅰ入試	12月1日（木）～12月15日（木）	12月17日（土）
一般入試・奨学Ⅱ入試	12月21日（水）～1月12日（木）	1月14日（土）

ルーテル学院幼稚園 詳細につきましては、☎096-343-3968までお問い合わせください。 <http://www.luther-yo.jp>

願書受付	面接
11月1日（金）午前8時から（先着順）	願書受付時に面接日をお知らせします。



消費収支計算書

2010年4月1日から2011年3月31日まで(単位:千円)

科 目	決算額
学生生徒等納付金	1,210,559
手数料	36,869
寄付金	12,251
補助金	493,185
国庫補助金	140,282
地方公共団体補助金	352,903
その他の補助金	0
資産運用収入	2,312
事業収入	56,119
雑収入	26,122
帰属収入合計	1,837,416
基本金組入額	△154,101
消費収入の部合計	1,683,316
人件費	1,120,382
教育研究経費	356,115
管理経費	150,392
借入金等利息	13,118
資産処分差額	1,107
徴収不能額等	1,341
消費支出の部合計	1,642,455
当年度消費収入超過額	40,860
前年度繰越消費支出超過額	1,739,022
翌年度繰越消費支出超過額	1,698,161

貸借対照表

2011年3月31日現在(単位:千円)

科 目	2010 年度末
資産の部	
固定資産	4,421,931
有形固定資産	4,215,732
土地	1,448,693
建物	2,149,378
その他有形固定資産	617,662
その他の固定資産	206,199
流動資産	472,415
現金預金	403,918
その他流動資産	68,497
資産の部合計	4,894,346
負債の部	
固定負債	835,446
長期借入金	613,940
その他固定負債	221,506
流動負債	204,697
短期借入金	72,850
その他流動負債	131,847
負債の部合計	1,040,143
基本金	
第1号基本金	5,423,365
第4号基本金	129,000
基本金の部合計	5,552,365
繰越消費収支差額の部	△1,698,161
負債の部・基本金の部・及び繰越	4,894,346
消費収支差額の部合計	

会計報告

本法人の2010年度決算は、表のようになりました。より詳しい報告は、大学ウェブサイトの『情報公開』の「財務報告書」と「事業報告書」をごらんください。

消費収支計算書は、企業会計の損益計算書に相当します。帰属収入から消費支出を引いた帰属収支差額（経常利益に相当）は、前年より5千5百万円増の1億9千5百万円となり、収入の10

%を超えた。ただし、これには中高2号館の耐震改修・バリアフリー工事の補助金4千3百万円が加わっています。収支改善の原動力は、好調な園児・生徒・学生募集と管理経費の削減努力です。収支改善で浮いたお金は、施設・設備の計画的な改善を通じて園児・生徒・学生に還元するとともに、将来に備えた財務体質強化に活かしています。（事務局長 古屋四朗）

Luther

ルーテル学院報(時報)

No.1

発 行／学校法人 九州ルーテル学院
発行人／清重 尚弘
発行日／2011年11月
編 集／ルーテル学院報編集委員会
印 刷／株式会社 あすなろ印刷

※ご意見・ご感想は編集委員会まで

〒860-8520

熊本市黒髪3-12-16

Tel. 093-343-3111

[2012年4月より住所が変わります。
新住所:熊本中央区黒髪3-12-16]